

佐々弘雄著作目録

松田 義男 編

改訂 2022 年 6 月 2 日

2003 年 7 月 19 日

佐々弘雄(1897-1948)略歴

佐々弘雄は、1897(明治 30)年 1 月 23 日、克堂佐々友房の三男として熊本市に生まれる。1914 年、東京府立第四中学校(現都立戸山高等学校)を卒業し、旧制第五高等学校に入学。1917 年、東京帝国大学法学部政治学科に入学。1920 年、東京帝国大学を卒業し、法学部副手、助手となる。1922 年 6 月、政治学・政治史研究のため、イギリス・フランス・ドイツへの留学の途につく。1924 年、帰国、九州帝国大学法学部教授に就任、政治学を担当。1928 年 4 月 24 日、九州帝国大学を依願退官(三・一五事件に帝国大学生が多数いたとして「左傾教授」の辞職か休職を文部省が大学に要求。東京帝国大学の大森義太郎、京都帝国大学の河上肇、九州帝国大学の石浜知行、向坂逸郎、佐々弘雄が依願免職の形式で追放された)。退官後、三宅雪嶺が主宰する『我観』、雪嶺の女婿中野正剛が社長を務める『九州日報』をはじめ、『改造』、『中央公論』、『経済往来』などに政治評論・人物評論などを執筆。1934 年 3 月、朝日新聞社に入社。論説委員、副主筆(1942 年)、主任論説委員(1943 年)、論説主幹(1945 年 3 月)として社説を執筆。1946 年 3 月、朝日新聞社を退社、第一回参議院選挙全国区に立候補し当選(無所属)、緑風会を結成。1947 年 7 月 8 日、熊本日日新聞社社長就任。1948 年 10 月 9 日、逝去。

凡例

- * 「1. 著書」、「2. 共著単行書所収」、「3. 辞典類」、「4. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列し、評論集収録評論について「5. 評論集初出」を付した。
- * 原本未確認の著作については*を付した。
- * 連載は、初回掲載に一括した。
- * 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- * 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- * 掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1・1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- * 座談会については、実施月日・出席者などを[]に注記した。
- * その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録の作成に際しては、岡山大学附属図書館、京都大学経済学部図書室、京都府立総合資料館、熊本県立図書館、神戸大学附属図書館、国立国会図書館、高千穂大学図書館、東京大学総合図書館、日本近代文学館、兵庫県立図書館、法政大学大原社会問題研究所、早稲田大学中央図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書

- 『政治の貧困 転換期の政治批判』千倉書房、1931年2月20日
- 『世界大思想全集 第2期第16 マキアベリよりレニンまで』[服部実・横川次郎との共訳。原著：Karl Vorlander. *Von Machiavelli bis Lenin: neuzeitliche Staats- und Gesellschaftstheorien*, 1926]春秋社、1931年11月1日
- 『大衆政治読本』中央公論社、1932年3月23日
- 『日本ファシズムの発展過程』浅野書店、1932年4月20日
- 『政局危機の動向』千倉書房、1932年11月23日
- 『人物春秋』改造社、1933年7月21日
- 『街頭政治読本 政治認識の基礎知識』千倉書房、1933年4月25日
- 『強力政治の将来』河出書房、1934年2月7日
- 『ファシズム国家学』中央公論社、1934年8月3日[戸野原史朗との共訳、原著 Herbert W. Schneider, *Making the fascist state*, 1928]
- 『続人物春秋』改造社、1935年5月17日
- 『西郷隆盛伝』<偉人伝全集 第11巻>改造社、1936年10月26日
- 『東亜新秩序論』神戸実業組合聯合会、1939年4月12日[2月8日講演会速記於神戸市立勸業会館]
- 『日本政治の発展と趨向』<太平洋問題資料 11>日本国際協会、1941年1月
- 『昭和政治悲史』<ラジオパンフレット2>日本放送出版協会、1946年6月1日
- 『政治は思想と信念から』<国民平和叢書 1>国民平和協会、1948年2月15日
- 『政治力の形成』<国民平和叢書 5>国民平和協会、1948年6月15日[「宗教と政治と婦人」(『熊本日日新聞』1947年11月25、26日)、「政治力の形成」(『朝日評論』3-4、1948年4月1日)、「県政と国政」(『熊本日日新聞』1948年6月22、23日)を収録]
- 『世界の命運』国立書院、1948年7月5日

2. 共著

英国労働党の成立綱領並に政策『各国無産政党発達史』社会思想社編<社会思想叢書 第7編>、同人社書店、1926年12月8日

政治学方法序論(吉野作造編『政治学研究 小野塚教授在職廿五年記念』第1巻、岩波書店、1927年12月25日

現代政治哲学問題『哲学講座 第十五』近代社、1928年6月20日[表紙には7月20日発行とある][『哲学講座』第9巻(誠文堂、1931年10月15日)、『哲学講座』第6(近代社、1947年)再録]

正当なる労働に対する正当なる賃銀[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第12巻』改造社、1928年8月5日

フランスに於ける叛逆者と間諜[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第4巻』改造社、1928年10月8日

支那印度論[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第6巻』改造社、1928年12月28日

汎スラブ主義[訳]『マルクス=エンゲルス全集 第7巻』改造社、1929年4月15日

議会問題に於けるイギリスの批判[宗道太との共訳]『マルクス=エンゲルス全集 第7巻』改造社、1929年4月15日

カール、フォレンダ「近世国家社会学説史」に就て『第二期思想全集付録』9、春秋社、1929年11月

『君論』解題『明治文化全集 第三巻 政治篇』日本評論社、1929年11月20日

埃太利共和国の展望『世界現状大観 II 独逸共和国篇』新潮社、1930年10月25日

雑誌と評論『総合ジャーナリズム講座 第2巻』内外社、1930年11月1日[復刻：日本図書センター、2004年6月]

イデオロギーとしての政治『イデオロギー論』理想社出版部、1931年7月10日

日本政党の研究『婦人公論大学 政治経済篇』中央公論社、1931年8月14日

哲学と政治学との交渉『岩波講座哲学 第10巻 哲学と諸科学との交渉』岩波書店、1932年6月20日

ファッシズムと現代『ファッシズム研究』改造社、1932年7月27日

政治篇[監修]『中央公論年報 1934年版』<『中央公論』49-1付録>、1934年1月1日

熊本人に就て『我等の熊本』我等の熊本刊行会編・刊、1934年11月20日

分らない偉人—人物評論の一考察—『世界を描く—随筆五十人集』[聞人会編]立命館出版部、1935年1月2日[『続人物春秋』収録]

挙国一致内閣制の動勢『日本国際年鑑(昭和十年版)』河出書房、1935年5月12日

日本右翼の政党及び団体の組織とその動向『日本国際年鑑(昭和十年版)』河出書房、1935年5月12日

興亜院論『アジア問題講座 第二巻—政治・軍事篇(二)—』創元社、1939年1月15日

The development and trends of Japanese politics 『Recent political and economic developments in Japan("Far Eastern conflict" series)』 Japanese Council Institute of Pacific Relations[日本国際協会太平洋問題調査部]、1941年12月29日[『日本政治の発展と趨向』(日本国際協会、1941年)の英語版]

祝辞[「国体法の研究」刊行完成祝賀会記録]『国体法の研究 天皇は統治権・実の主体にして権利の総攬者たるを論ず』<増訂新版>里見岸雄著、錦正社、1942年7月20日

祖国再建の理論と人間[「救国者の条件」]『救国者は誰か 再建日本各界人物記』<『自由国民』19-5>時局月報社、1946年12月10日

戦後の日本政党論『五大政党を解剖する』政治経済評論社、1948年5月5日

3. 辞典類

『社会科学大辞典』[社会思想社編]改造社、1930年5月15日[執筆項目:「アイルランド」「アヴェナリウス」「アスキス」「アフリカ」「アメリカ合衆国」「新井白石」「アラスカ」「イギリス」「イギリス共産党」「イギリス独立労働党」「イギリス労働党」「板垣退助」「イタリア」「伊藤博文」「岩倉具視」「インド」「ウエツプ」「ウオーレス」「エジプト」「エンジェル」「王安石」「大久保利通」「オーストラリア」「オーストラリア労働党」「オーストリア」「王陽明」「オランダ」「カナダ」「カプール」「管仲」「関東大震災」「韓非子」「官僚政治」「帰化」「キツド」「木戸孝允」「キューバ」「ギリシア」「キング」「近世政治学説」「近世政治史」「グラツドストーン」「グリーン」「現代政治学」「黒人問題」「ゴスリング」「西園寺公望」「ジエームス」「支那」「社会政策」「シヤム」「所有」「シルレル」「スウイス」「ステインネス」「スペイン」「政策」「政治及び政治学」「政治闘争」「政党」「ダマシユケ」「チエツコスロヴァキア」「デイズレーリ」「デ・ヴァレラ」「ドイツ」「トルコ」「中江篤介」「日露戦争」「二宮尊徳」「日本」「ニュージーランド」「ニュージーランド労働党」「ノールウエー」「バジヨット」「パナマ」「バルカン諸国」「バルチツク沿岸諸国」「ハワイ」「ハンガリー」「ピット」「秘密結社」「ファツシズム」「フィリピン諸島」「フォード」「ブライト」「ブラジル」「フランス」「フランスの政党」「プリス」「ヘーラクライトス」「ヘツケル」「ベルギー」「ポーランド」「保守主義」「ポルトガル」「マツハ」「南アフリカ」「メキシコ」「唯物論」「横井小楠」「ラツセル」「ラツツエルホーフエル」「ラデイカリズム」「ルナチャルスキー」「ロイド・ジョージ」「ロシア」「ロリア」「ワーレン」「ワラス」]

『大百科事典 第9巻』平凡社、1932年8月19日[執筆項目:「国際政治」「国家学説」]

『大百科事典 第14巻』平凡社、1933年1月19日[執筆項目:「政治学」「政治革命」「政治教育」「政治組織」]

『大百科事典 第24巻』平凡社、1933年11月20日[執筆項目:「民本主義」]

4. 論文等(新聞・雑誌掲載)<733 篇>

1919(大正 8)年

先駆者を憶ふ『デモクラシイ』1-2、4月1日[「解放と先駆者」と改題、『解放』1-2(7月1日)に投稿]
クロボトキン[「人物評伝」]『デモクラシイ』1-5、7月1日
解放と先駆者[「自由論壇」]『解放』1-2、7月1日[「先駆者を憶ふ」(『デモクラシイ』1-2、4月1日)と同文]
[「村人語」蘭の「弘雄」署名文]『デモクラシイ』1-5、7月1日

1920(大正 9)年

政治現象としての自由、平等及国家施設の原理[「雑録」]『国家学会雑誌』34-10、10月1日

1921(大正 10)年

「新人の使命」「新社会の基礎」「死線を越えて」[「新刊紹介」]『国家学会雑誌』35-1、1月1日
トルストイの政治学的地位『国家学会雑誌』35-2、2月1日
最近社会思潮の二大特徴としての国家の新位置と中央集権の分裂進化 杉森孝次郎[「雑報 講演消息」]『国家学会雑誌』35-4、4月1日
大戦中大戦後の米国の外交 村川堅固[「雑報 講演消息」]『国家学会雑誌』35-4、4月1日
政治学の将来に就いて『万朝報』4月12日
報導並に短評の態度[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4月15日
ハーディング白亜館に入る[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4月15日
ヤップ島問題概観[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4月15日
対支借款[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4月15日
対露通商拒絶[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4月15日
海軍問題一斑[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-4、4月15日
新奥太利政情[「雑報」]『国家学会雑誌』35-5、5月1日
ウツド將軍の使命[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7月1日
比律賓独立問題[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7月1日
米国海運と船員罷業[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7月1日
米国軍備縮小輿論[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7月1日
ヤップ島の国際化[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7月1日
日英同盟更新と米国[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-6、7月1日
長谷川如是閑氏著「現代国家批判」[「新刊紹介」]『国家学会雑誌』35-10、10月1日

ニュー、レバプリック紙の救露意見[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
フーヴェ氏の救露条件[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
墨西哥石油問題[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
対独壤平和宣言と対独壤媾和条約[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
ヤツプ問題の推移[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
ヤツプの門戸開放[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
米国排日三件[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
華盛頓会議と其の効果[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-8、10月15日
チェツク、スラヴアキアの外交策[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-11、11月1日
カツセル条約[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-11、11月1日
米国一般方針に関する國務省の声明[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11月15日
米国に於ける華盛頓会議の準備[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11月15日
ハーヴァト、フーヴェ氏の手紙[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11月15日
波斯の対米通商促進[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11月15日
中央アメリカ連邦の成立[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-9、11月15日
反ハプスブルグ同盟[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-12、12月1日
ルマノ、ポリツシユ同盟[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』35-12、12月1日
英国労働党の組織改造[M. Beer, History of British socialism の抄訳]『ナロオド』6、12月1日
国家連合の意義に就いて『国際法外交雑誌』20-10、12月15日
レオナルド、ウツド新比律賓総督[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12月15日
マニユエル、エル、ケゾン氏の比島独立意見[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12月15日
中央亜米利加連邦後聞[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12月15日
ラテンアメリカ諸国の接近運動[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12月15日
ヒューズ氏の海軍縮小案と七割説[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』20-10、12月15日

1922(大正 11)年

平和的協調の伊太利[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-1、1月1日
フエーメ共和国大統領[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-1、1月1日
ユーゴースラヴィア王位継承問題[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-1、1月1日
ヤツプ島問題解決[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-1、1月15日
華盛頓会議に於ける潜航艇紛議と四国協定の成立[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-1、1月15日
ブルガリアとソヴィエツト[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-2、2月1日

ルーマニアとソヴィエツト[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-2、2月1日
ゼノア会議に対する米国政府の態度[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-2、2月15日
ウツト將軍の報告と国民党の立場[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-2、2月15日
日米関係の将来に於ける趨勢[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-2、2月15日
米国上院の研究『日本読書協会甲種会報』18、2月15日
印度に於ける政治的不安[「海外政治事情」]『国家学会雑誌』36-3、3月1日
比律賓国民党の分裂[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-3、3月15日
西伯利亞撤兵問題に関するヒューズ氏の陳述及米国輿論[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-3、3月15日
英国近代社会主義運動『社会思想』1-1～4、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日
米国上院の批准を了せる四国協約[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-4、4月15日
四国協商と日英同盟並に国家連合案[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-4、4月15日
米国政府のゼノア会議不参加通告[「米州外交時事」]『国際法外交雑誌』21-4、4月15日

1925(大正 14)年

貨幣相場安定の問題『社会思想』4-2、2月1日[「貨幣相場の問題」と改題、『街頭政治読本』収録]
英国労働党の成立と其の綱領『社会思想』4-4、4月1日

1927(昭和 2)年

支那関税会議『社会思想』6-3、3月1日
マキアヴェリズムに就いて『外交時報』537、4月15日
兆民居士政治遺訓『法律春秋』2-7、7月1日
日本人口問題『社会思想』6-9、9月1日 [『政治の貧困』収録]
普通選挙制度批判『国家学会雑誌』41-12、12月1日 [『政治の貧困』収録]

1928(昭和 3)年

現代政局の中心問題『九州日報』7月18～26日
アメリカに於ける全国的労働党の結成(一九一九年)『我等』10-7、8、8月1日、9月1日
アメリカ労働階級の政治行動『改造』10-9、9月1日
中国国民党政策批判『社会思想』7-10、10月1日
形式社会学論 新明正道著[「新刊紹介」]『社会思想』7-10、10月1日
日系市民の問題—布哇に於ける米人殺害事件—『帝国大学新聞』265、10月1日
小選挙区制論『九州日報』10月2～4日

支那をめぐる日英米露『外交時報』573、10月15日
[「新日本は如何に進まん 御大典を一期として」]『九州日報』11月20日
今中次麿著『政治学に於ける方法二元論』[「紹介及批判」]『国家学会雑誌』42-12、12月1日
蠟山政道著 国際政治と国際行政[「新刊紹介」]『社会思想』7-12、12月1日
笠信太郎著「シュペングラーの歴史主義的立場」[「新刊紹介」]『社会思想』7-12、12月1日
対支政策としての日英提携『九州日報』12月11～14、16、18、19日[16、18、19日付は「夕刊」]

1929(昭和4)年

アメリカ社会、政治の現段階[「世界各国最近の動向」]『改造』11-1、1月1日
アメリカ移民に鑑みて[「学究的立場より観たるブラジル移住」]『ブラジル』3-1、1月1日
対支国論統一と支那国家観[「時観」]『社会思想』8-2、2月1日
満州問題の意義『帝国大学新聞』283、2月4日
国難独逸の雄弁[「世界の雄弁を聴く」]『改造』11-3、3月1日[「シュトレゼマンの雄弁」と改題、『人物春秋』収録]
蠟山君新著『国際政治と国際行政』を讀みて『外交時報』582、3月15日
政治学[「社会科学文献批評」]『社会科学』5-1<3月特輯号>、3月25日
現代と政治と社会政策『九州日報』4月3～6日
議会と社会政策『九州日報』4月26～30日、5月1日
グローテウスの政治思想『外交時報』587、5月15日
大衆党の成立及崩壊の過程『九州日報』5月25～28日[『政治の貧困』収録]
「事実」と哲学、科学、政治[「学界余談」]『東京朝日新聞』6月1～3日
英露関係論—支那を中心として—『法律春秋』4-6、6月1日
支那に於ける内争と国際政治[「時観」]『社会思想』8-7、7月1日
政治理論と現代政治の傾向『我観』68、7月1日[『政治の貧困』収録]
総選挙に勝てるイギリス労働党『経済往来』4-7、7月1日
イギリス総選挙の印象及び批判『文芸春秋』7-7、7月1日
議会解散問題と政局の展望『九州日報』7月29～31日、8月2～4日
現代支那の政治及政治思想『支那』20-9、9月1日
二宮尊徳の政治思想『我観』70～73、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日[『続人物春秋』収録]
イギリス労働党の失業政策『社会政策時報』108、9月1日
希臘に於ける政治思想『外交時報』595、9月15日
予算説明会応答の所感『九州日報』9月15、17日

失業問題の意義及其の対策『九州日報[夕刊]』9月17、18、20～22、28、29日、10月1、2日[『政治の貧困』収録]

William E. Heeking, Man and the State, 1926[紹介及批判]『国家学会雑誌』43-10、10月1日

買断事件に就いて[「時観」]『社会思想』8-10、10月1日

改組運動と政治過程[「支那の動きとその解説」]『九州日報』10月8～11日

軍縮会議の基調は果して平和主義か『帝国大学新聞』310、10月8日

俳味[「現代世界展望」]『東京朝日新聞』10月31日

政友会の新政策とその将来『九州日報』11月6～10日

ヘーゲル研究への入門『帝国大学新聞』316、11月8日

陸軍縮小問題の意義『我観』73、12月1日

政治上から見た減俸案『法律春秋』4-12、12月1日

猪俣津南雄氏著「現代日本研究」[「読書ページ」]『東京朝日新聞』12月13日

1930(昭和5)年

政治的強力について[「特輯 力」]『我観』74、1月1日[『政治の貧困』収録]

金解禁後の新政策[「政治時評」]『経済往来』5-1、1月1日

昭和五年の政友会[「政治時評」]『経済往来』5-1、1月1日

疑獄事件の政治化か政治の疑獄化か[「政治時評」]『経済往来』5-1、1月1日

無産党の進出か? [「政治時評」]『経済往来』5-1、1月1日

南京政府政権の動揺[「時観」]『社会思想』9-1、1月1日

解散来る! 政界大掃除の好機『九州日報』1月14日

革新運動の社会的観察[「選挙革新への実際問題」]『我観』75、2月1日

社会科学及政治学の一般的问题—田辺元博士の「科学に於ける階級性」を読みて—『経済往来』5-2、2月1日[『政治の貧困』収録]

東京市政と市電大罷業[「政治時評」]『経済往来』5-2、2月1日

地方自治機関の崩壊現象[「政治時評」]『経済往来』5-2、2月1日

選挙革新[「政治時評」]『経済往来』5-2、2月1日

社会民衆党遂に分裂[「政治時評」]『経済往来』5-2、2月1日

ビブリオマニの話『東京朝日新聞』2月15、17、18日

紡績業操業短縮問題の非社会性『我観』76、3月1日

プロレタリア政治学の理論と実際『改造』12-3、3月1日[『政治の貧困』収録]

議会解散の理由及意義[「政治時評」]『経済往来』5-3、3月1日

各政党の選挙スローガン[「政治時評」]『経済往来』5-3、3月1日

無産党の選挙協定の破綻[「政治時評」]『経済往来』5-3、3月1日
教育政策の問題[「政治時評」]『経済往来』5-3、3月1日
朝鮮及印度における不安[「政治時評」]『経済往来』5-3、3月1日
独立無産党内閣の予想『中央公論』45-3、3月1日[『政治の貧困』収録]
「ソウエート連邦の実相」『現代日本研究』[「読書ページ」]『東京朝日新聞』3月14日
政党論『我観』77、4月1日[『政治の貧困』収録]
無産政党の合同及びその将来『我観』77、4月1日[『政治の貧困』収録]
総選挙結果と無産、民政、政友[「政治時評」]『経済往来』5-4、4月1日
無産党合同問題[「政治時評」]『経済往来』5-4、4月1日
労働組合法と失業対策[「政治時評」]『経済往来』5-4、4月1日
犬養総裁とビーヴァーブルック卿[「政治時評」]『経済往来』5-4、4月1日
東方に於ける古代政治思想『外交時報』609、4月15日
ロンドン海軍条約の文化観『九州日報』4月28、30日、5月1、2日[「海軍軍縮問題—ロンドン海軍条約の文化観—」と改題、『政治の貧困』収録]
鐘紡減給争議はどうなる『我観』78、5月1日
政界無風地帯に入る[「政治時評」]『経済往来』5-5、5月1日
ドクター・ケメラの報告書とは[「政治時評」]『経済往来』5-5、5月1日
フーヴェリズムの支那進出[「政治時評」]『経済往来』5-5、5月1日
国防責任論戦の時代風景『九州日報[夕刊]』5月5、7～9日[「統帥権問題—国防責任論戦の時代風景—」と改題、『政治の貧困』収録]
政争から政治闘争への過程『我観』79、6月1日[『政治の貧困』収録]
公営事業における罷業[「労働争議の現実的把握」]『我観』79、6月1日
統帥権問題の内容と本質[「政治時評」]『経済往来』5-6、6月1日
無産政党と議会内の闘争[「政治時評」]『経済往来』5-6、6月1日
大山郁夫氏の演説[「政治時評」]『経済往来』5-6、6月1日
支那に於ける共産系の活躍[「政治時評」]『経済往来』5-6、6月1日
社会科学鳥瞰図 The Encyclopedia of the Social Sciences『帝国大学新聞』342、6月2日
社会科学大辞典の編纂について『社会科学』6-1、6月8日
印度革命運動の意義『京都帝国大学新聞』125、6月21日
印度革命の現段階『我観』80、7月1日
教育行政の合理化—日本大学紛争など—[「政治時評」]『経済往来』5-7、7月1日
自由主義政治と極左運動の激化[「政治時評」]『経済往来』5-7、7月1日
内外試練下のイギリス—労働党内閣空前の危機—[「世界の苦悶」]『我観』81、8月1日

教育行政の強化 - 日本大学問題再論 - 『経済往来』 5-8、8月1日

金融資本主義政策を見る『経済往来』 5-8、8月1日

現代日本の政治過程に於ける封建勢力『我観』 82、9月1日[「貴族院・枢密院論—現代日本の政治過程に於ける封建勢力—」と改題、『政治の貧困』収録]

第三政府の成立—支那の変局—[「政治時評」]『経済往来』 5-9、9月1日

全国大衆党の結党—結党大会を観る—[「政治時評」]『経済往来』 5-9、9月1日

枢密院の秋色[「時事片々」]『九州日報』 9月18日[『街頭政治読本』収録]

飛行機回顧[「時事片々」]『九州日報』 9月19日

野球は峠を越へた[「時事片々」]『九州日報』 9月20日[『街頭政治読本』収録]

織田幹雄選手とドイツ[「時事片々」]『九州日報』 9月23日[『街頭政治読本』収録]

大東京所感[「時事片々」]『九州日報』 9月24日[「大東京の顔」と改題、『街頭政治読本』収録]

嵐を孕む現国際対立関係『我観』 83、10月1日

政治学説史論『外交時報』 620、10月1日

イギリス社会主義の変質[「政治時評」]『経済往来』 5-10、10月1日

枢密院問題の時代風景[「政治時評」]『経済往来』 5-10、10月1日

日米戦争論につき[随筆]『文芸春秋』 8-11、10月1日

早慶戦切符問題[「時事片々」]『九州日報』 10月21日

叔母の上京[「時事片々」]『九州日報』 10月23日

ブリューニングの演説とフランス[「時事片々」]『九州日報』 10月24日[『街頭政治読本』収録]

国際政治とR—O—号[「時事片々」]『九州日報』 10月25日[『街頭政治読本』収録]

教育制度の変革期[「時事片々」]『九州日報』 10月26日[『街頭政治読本』収録]

教育行政上のスポーツ政策[「政治時評」]『経済往来』 5-12、11月1日

陸軍縮小は可能か[「政治時評」]『経済往来』 5-12、11月1日

浜口君の心腸—首相遭難の個人観[「時事片々」]『九州日報』 11月20日[『人物春秋』収録]

婦人労働問題の歴史的文献『帝国大学新聞』 361、11月20日

浜口首相の遭難『九州日報[夕刊]』 11月21～23日[『人物春秋』収録]

煙突上のインテリゲンツィヤ[「時事片々」]『九州日報』 11月24日[『街頭政治読本』収録]

政治の貧困[「時事片々」]『九州日報』 11月25日

疑獄はどうして起るか[「時事片々」]『九州日報』 11月26日

昭和十七疑士[「時事片々」]『九州日報』 11月27日[『街頭政治読本』収録]

冬来りなば[「時事片々」]『九州日報』 11月28日

日英経済提携は可能か?—イギリス経済使節の来訪について—[「政治時評」]『経済往来』 5-13、12月1日

無産政党合同の新気運『九州日報』12月11、12日

一九三〇年の学界『九州日報』12月27日[『新聞集成昭和編年史 第五卷 昭和五年度』(新聞集成大正昭和編年史刊行会、1958年)収録]

貧困線[「時事片々」]『九州日報』12月28日[『街頭政治読本』収録]

クリスマスの銀座[「時事片々」]『九州日報』12月30日

1931(昭和6)年

政治を語る『九州日報』1月1、3～6日[『街頭政治読本』収録]

議事なきか? [「時事片片」]『九州日報』1月5日

枢密院だけでも! [「時事片片」]『九州日報』1月6日[『街頭政治読本』収録]

売淫と社会[「時事片片」]『九州日報』1月7日[『街頭政治読本』収録]

北窓[「時事片片」]『九州日報』1月8日

自由主義かファツシズム化か『改造』13-2、2月1日

昭和六年度予算の反動性『批判』2-2、2月1日

独裁主義の問題—カウツキー及びレーニンのプロレタリアート独裁理論につき—『法律春秋』6-2、2月1日

ヂャーナリズムと輿論と『九州日報』2月3、4日

写真[「時事片片」]『九州日報』2月10日

大内兵衛教授の名著[「時事片片」]『九州日報』2月11日

大内兵衛教授の名著[「時事片片」]『九州日報』2月12日

酒[「時事片々」]『九州日報』2月13日

ファツシズムの国家化と国際化[「時事片々」]『九州日報』2月15日[『街頭政治読本』収録]

議会経済論戦に現れた資本家経済の苦悶[「政治経済時評」]『エコノミスト』9-4、2月15日

コーヒー一杯[「時事片々」]『九州日報』2月16日

ある雪の日[「時事片々」]『九州日報』2月18日

議会政治の危機『九州日報』2月22～27日

議会政治の顛落[「乱議会議会批判」]『改造』13-3、3月1日[『日本ファツシズムの発展過程』収録]

スペインの動揺[「時事片々」]『九州日報』3月6日[『街頭政治読本』収録]

その後に来るもの[「時事片々」]『九州日報』3月7日

学校の春[「時事片々」]『九州日報』3月8日

苛法酷律[「時事片々」]『九州日報』3月9日

中国国際借款問題—胡漢民氏の失脚に関連して—[「政治経済時評」]『エコノミスト』9-6、3月15日

プロレタリア解放運動と宗教『中外日報』3月25～28日

春眠の政局『九州日報[夕刊]』3月29、31日、4月1、2日

張良論『改造』13-4、4月1日[『人物春秋』収録]

議会制度の危機に於けるファシズム[「議会制度とファシズム批判」]『経済往来』6-4、4月1日[「議会制度の危機とファシズム」と改題、『日本ファシズムの発展過程』]

論壇時評『中央公論』46-4、4月1日

生産高と失業[「時事片々」]『九州日報』4月10日[『街頭政治読本』収録]

春[「時事片々」]『九州日報』4月11、13日

タマニーホール[「時事片々」]『九州日報』4月14日[『街頭政治読本』収録]

洪温泉の一夜[「時事片々」]『九州日報』4月15日

音楽[「時事片々」]『九州日報』4月16日[『街頭政治読本』収録]

政局を支配するもの—金融寡頭政治の実相—[「没落か更生か既成政党」]『改造』13-5、5月1日[『日本ファシズムの発展過程』収録]

若槻新総裁論『改造』13-5、5月1日[『人物春秋』収録]

戦争記—フリドリヒ・エンゲルスと戦争—『批判』2-5、5月1日

神宮新球場にて[「時事片々」]『九州日報』5月15、16日

犯人判明す[「時事片々」]『九州日報』5月23日

学生検挙の問題[「時事片々」]『九州日報』5月24日

スポーツの再認識『九州日報』5月24、26、27日

金の話[「時事片々」]『九州日報』5月25日[『街頭政治読本』収録]

第二次世界戦争の機会[「第二次世界戦争は果して起るか？」]『経済往来』6-6、6月1日

日本ファシズムの発展過程[「日本ファシズムへの展望」]『中央公論』46-6、6月1日[『日本ファシズムの発展過程』収録]

減俸案問題の解剖[「政治経済時評」]『エコノミスト』9-12、6月15日[「減俸案問題」と改題、『日本ファシズムの発展過程』収録]

総裁ごっこ[「時事片々」]『九州日報』6月18日[『街頭政治読本』収録]

単一無産政党論印象『[明治大学]駿台新報』290、6月20日

早慶戦唯物史観[「時事片々」]『九州日報』6月20、21日[『街頭政治読本』収録]

益田豊彦君訳『無産者政治教程』[「時事片々」]『九州日報』6月24日

金忠輔[「時事片々」]『九州日報』6月26日

人物市場の伯樂 馬場恒吾氏の新著—政界人物風景を読む[「読書ページ」]『東京朝日新聞』6月26日

英雄は不代替物か[「時事片片」]『九州日報』6月30日、7月1日[『人物春秋』収録]

我国金融寡頭政治「現代大衆読本」『中央公論』46-7、7月1日

各政党の勢力分布「現代大衆読本」『中央公論』46-7、7月1日

九軌の大火[「時事片片」]『九州日報』7月17日

神田より赤坂へ[「時事片片」]『九州日報』7月19日
なんせんす[「時事片片」]『九州日報』7月20日[「なんせんすの背後」と改題、『街頭政治読本』収録]
中野克明君[「時事片片」]『九州日報』7月23日
ラヂオ論[「時事片片」]『九州日報』7月27日[『街頭政治読本』収録]
大地[「時事片片」]『九州日報』7月28日
人間としてのマルクス[「時事片片」]『九州日報』7月29日[『人物春秋』収録]
大山と麻生『改造』13-8、8月1日[『人物春秋』収録]
転落期のイギリス帝国主義『社会政策時報』131、8月1日
学制改革案『九州日報』8月11、12日
中野正剛氏著「沈滞日本の更正」[「ブツクレヴユウ」]『九州日報』8月13日
菊池寛氏の「ナポレオン伝」評－偉人伝全集について－[「ブツクレヴユウ」]『九州日報』8月13日
AとBとの会話[「時事片片」]『九州日報』8月16日[『街頭政治読本』収録]
迷信の食物[「時事片片」]『九州日報』8月18日[『街頭政治読本』収録]
種田少将を刺した！[随筆]『文芸春秋』9-9、9月1日
マクドナルド『満州日報[夕刊]』9月6日
生活と真実[「時事片片」]『九州日報』9月12、13日
日本金融資本主義政治の解剖 森喜一氏の新著を読む[「読書顧問」]『時事新報』9月14日
反動の赤化『満州日報[夕刊]』9月18日
教師と生徒との関係[「時事片片」]『九州日報』9月19、20日[『街頭政治読本』収録]
奉天事件の勃発[「満蒙の事変をどう見る」]『エコノミスト』9-19、10月1日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
日華危機迫る [「政治時評」]『改造』13-19、10月1日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
江木翼の引退[「政治時評」]『改造』13-19、10月1日[『人物春秋』収録]
現代大学論『理想』19、10月1日
旅[「時事片片」]『九州日報』10月7日
逸題[「時事片片」]『九州日報』10月8日
元老、重臣の出馬[「時事片片」]『九州日報』10月20日[『街頭政治読本』収録]
るんぺん。へんぺん[「時事片片」]『九州日報』10月25日
ハイド・パークの有閑風景[「時事片片」]『九州日報』10月26～28日[『街頭政治読本』収録]
強行軍部と幣原外交[「満州事変」]『改造』13-11、11月1日[『日本ファシズムの発展過程』]
全面的政治抗争[「震撼する東亜」]『中央公論』46-11、11月1日[「日支全面的政治抗争」と改題、『日本ファシズムの発展過程』収録]
父性[「時事片片」]『九州日報』11月5～7日[『街頭政治読本』収録]

ファシズム論『改造』13-12、12月1日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
東京政治経済研究所編『世界政治経済年鑑』[「新刊紹介」]『批判』2-11、12月1日
河上博士に答へる『東京朝日新聞』12月5、6日
珍品五〇の受領証[「時事片片」]『九州日報』12月16日[『街頭政治読本』収録]
協力内閣と単独内閣『九州日報』12月17～19日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
『時の人』赤松克麿君[「時事片片」]『九州日報』12月20、21日[『人物春秋』収録]
政友内閣の政治的分析『帝国大学新聞』412、12月21日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
河上肇と吉野作造[「時事片片」]『九州日報』12月29、30日[「河上肇と吉野作造の対照観」と改題、『人物春秋』収録]

1932(昭和7)年

恐慌裡の政変[「論説」]『エコノミスト』10-1、1月1日
犬養内閣論『改造』14-1、1月1日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
1932年政治的展望『九州日報』1月1、3～9日
国際連盟論『経済往来』7-1、1月1日
時局座談会 ファシズム批判『経済往来』7-1、1月1日[12月4日座談会：蟬山政道、赤松克麿]
議會政治とファシズム[「現代日本の再検討」]『中央公論』47-1、1月1日
評論の評論[「時事片片」]『九州日報』1月14、15日
政局動乱期に入る[「政治時評」]『改造』14-2、2月1日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
金融的事件[「論壇批判」]『読売新聞』2月5日
金融的事件？ 鈴木、馬場氏の論評[「論壇批判」]『読売新聞』2月6日
国民社会主義の分析 山川均氏の論旨を觀る[「論壇批判」]『読売新聞』2月7日
蟬山教授のアジアモンロー主義[「論壇批判」]『読売新聞』2月9日
国際危機爆發に関する読物[「論壇批判」]『読売新聞』2月11日
再三思せしむる力作 大塚博士の論文[「論壇批判」]『読売新聞』2月12日
人及び政治家としての井上準之助『改造』14-3、3月1日[『人物春秋』収録]
危機に立つ大民政党『中央公論』47-3、3月1日
国民社会党の分析『社会政策時報』138、3月1日
総選挙縦横座談会『文芸春秋』10-3、3月1日[2月1日座談会(於レインボーグリル)：阿部真之助、赤松克麿、山浦貫一、馬場恒吾、野村秀雄、管忠雄]
ギャングの発生は歴史的必然性『アサヒグラフ』18-13、3月23日
政友会の内紛とその前途『九州日報』3月23～25日[『日本ファシズムの発展過程』収録]
テロリズムとギャング[「時事片々」]『九州日報』3月27～29日[『街頭政治読本』収録]

民政党の前途『改造』14-4、4月1日[「総選挙後の民政党とその前途」と改題、『日本ファシズムの発展過程』収録]

久原房之助氏に物を訊く座談会『文芸春秋』10-4、4月1日[座談会(於銀座・花月):御手洗辰雄、菊池寛、菅忠雄]

インフレーションの話[「時事片々」]『九州日報』4月5、6日[『街頭政治読本』収録]

書齋[「時事片々」]『九州日報』4月7日

資本と政治[「時事片々」]『九州日報』4月8、9日[『街頭政治読本』収録]

嵐の前に立つ大政友会『改造』14-5、5月1日[『政局危機の動向』収録]

失業対策の失業[「政治時評」]『経済往来』7-5、5月1日[『政局危機の動向』収録]

無産党陣営アジアの嵐[「政治時評」]『経済往来』7-5、5月1日[『政局危機の動向』収録]

時事三題『婦人之友』26-5、1932-5月1日【1.三井三菱の國家奉仕!、2.ヒトラー大統領選挙戦、3.インテリ層の苦惱】1を「資本家階級と満州—三井・三菱の國家奉仕!」と改題『政局危機の動向』収録]

ブルジョア・フェミニズムを克服せよ『婦人公論』17-5、5月1日

学校当局の答弁[「時事片々」]『九州日報』5月8~10日[『街頭政治読本』収録]

マラソン競争[「時事片々」]『九州日報』5月11日[『街頭政治読本』収録]

ある煩悶[「時事片々」]『九州日報』5月13日

愛[「時事片々」]『九州日報』5月15~17、19日

ファシズム内閣論『改造』14-6、6月1日[『政局危機の動向』収録]

臨時議会論—ファシズムの新運動—『経済往来』7-6、6月1日[『政局危機の動向』収録]

犬養毅の晴天『日本国民』1-2、6月1日

*ファシズムの話『日本講演通信』145、6月5日

農村苦悩の政治化『エコノミスト』10-12、6月15日[『政局危機の動向』収録]

非常時日本の政治的展望『改造』14-7、7月1日[『政局危機の動向』収録]

非常時内閣論『経済往来』7-7、7月1日[「斉藤非常時内閣論」と改題『政局危機の動向』収録]

うらら[「時事片々」]『九州日報』7月17日[「婦人煙草うらら」と改題、『街頭政治読本』収録]

農村救済策の救済[「時事片々」]『九州日報』7月18、19日[『街頭政治読本』収録]

『人生案内』と『自由を我等に』[「時事片々」]『九州日報』7月20~22日

ファシズム解説『九州日報[夕刊]』7月22~24、26~29、31日、8月3日[「ファシズム略解」と改題、『政局危機の動向』収録]

ぐりむぶず[「時事片々」]『九州日報』7月25日

茂森唯士氏訳『日本経済恐慌の研究』[「時事片々」]『九州日報』7月26日

阿部勇氏訳ナヒムソンの『財政学』[「時事片々」]『九州日報』7月27日

伊多喜男の政治的立場『改造』14-8、8月1日[『人物春秋』収録]

斉藤内閣と修正議会主義『経済往来』7-8、8月1日[『政局危機の動向』収録]

大民政党の分裂裏話『中央公論』47-9、8月1日[「民政党裏話」と改題、『政局危機の動向』収録]

政界新人と少壮評論家 新日本建設座談会『文芸春秋』10-8、8月1日[座談会：風見章、野中徹也、杉浦武雄、大森義太郎、中野正剛、香月保、林広吉、菅忠雄]

見透しと論説を主[「新聞に対して、一番不満不愉快な点はどこか】『週刊時局新聞』1、8月15日

満州政策の切断面『改造』14-9、9月1日[『政局危機の動向』収録]

齊藤内閣の次に来るもの『経済往来』7-9、9月1日[『政局危機の動向』収録]

社会大衆党と労働組合会議『社会政策時報』144、9月1日[『政局危機の動向』収録]

戦争論[「九月の論壇】『東京朝日新聞』9月1、2日

議会日日 傍聴席から『九州日報[夕刊]』9月3[朝刊]、4、6日[「齊藤内閣時代－傍聴席から」と改題、『街頭政治読本』収録]

政局観[「九月の論壇】『東京朝日新聞』9月3日

満州問題－景気－哲学[「九月の論壇】『東京朝日新聞』9月4日

ファツシズムの話[7月15日定例講演於水交社]『有終』19-9、10、9月5日、10月5日

障子のない秋[「時事片々】『九州日報』9月20日

秋の俳句[「時事片々】『九州日報』9月26日

大川周明論『改造』14-10、10月1日[『人物春秋』収録]

非常時議会の内外批判『経済往来』7-11、10月1日[『政局危機の動向』収録]

政局の廻転『日本国民』1-6、10月1日[『政局危機の動向』収録]

[「けふの問題】『九州日報[夕刊]』10月5日

リットン報告書の批判と非常時日本の態度[「論壇時評】『読売新聞』10月5日

[「今日の問題】『九州日報[夕刊]』10月6日

ジャーナリズムの動向を示す現代評論の分野[「論壇時評】『読売新聞』10月6日

[「今日の問題】『九州日報[夕刊]』10月7日

指導理論のない理由並に須井一の思想[「論壇時評】『読売新聞』10月7日

[「今日の問題】『九州日報[夕刊]』10月8日

特殊雑誌の暴露物と長谷川、高橋氏等の論文[「論壇時評】『読売新聞』10月8日

[「今日の問題】『九州日報[夕刊]』10月9日

学校と学問『週刊朝日』22-17、10月9日[『街頭政治読本』収録]

危機神学の反動性並に時局を取扱った論文[「論壇時評】『読売新聞』10月9日

[「今日の問題】『九州日報[夕刊]』10月11日

大内、石浜氏等の論文と雑然たる素材の配列[「論壇時評】『読売新聞』10月11日

[「今日の問題】『九州日報[夕刊]』10月12日

[「今日の問題】『九州日報[夕刊]』10月13日

[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10月15日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10月16日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10月20日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10月21日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10月22日
日－支－露－満関係の再認識『九州日報』10月22～25日[「日露支関係の再認識」と改題、『政局危機の動向』収録]
小新聞[「時事片々」]『九州日報』10月27日[『街頭政治読本』収録]
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』10月27日
人物論[「時事片々」]『九州日報』10月29、30日[『人物春秋』収録]
日支露満関係の再認識『我観』108、11月1日
政治発展の理論『改造』14-11、11月1日
リットン報告書『改造』14-11、11月1日[『政局危機の動向』収録]
財政危機と政局危機『経済往来』7-12、11月1日[『政局危機の動向』収録]
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月1日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月2日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月3日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月6日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月8日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月9日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月10日
米大統領の更代と日本への影響[「動くアメリカを観る」]『読売新聞』11月11日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月12日
財政危機時代[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月13、16～19日[『強力政治の将来』収録]
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月22日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月23日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月25日
政局はどうなる[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』11月26、27、29、30日
政界ダーク・ホース論『改造』14-12、12月1日[『人物春秋』収録]
ルーズヴェルトの当選と日本政局『経済往来』7-13、12月1日[『強力政治の将来』収録]
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月4日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月6日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月7日

連盟総会の形勢[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月10日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月11日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月16日
戦債問題の重要性[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月18日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月21日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月22日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月23日
議会前[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月25日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』12月28日
ファシズムの理論と実際－日本ファシズム運動の特種性－[11月2日社会大衆党城西支部主催講演会於
牛込城西仏教会館]『講演』204、12月30日

1933(昭和8)年

昭和八年政局の変局－一扈大予算案をめぐる政府、政党、軍部－『改造』15-1、1月1日[『強力政治の将来』収録]
宇垣一成の政治的立場『経済往来』8-1、1月1日[『人物春秋』収録]
森格論『経済往来』8-1、1月1日[『人物春秋』収録]
どんな内閣が来るだろう？日本政局の気象『帝国大学新聞』460、1月1日
ファシズムとは何か[講演大要(於参政権協会主催研究会)、文責在記者]『婦人新報』418、1月1日
政治展望[「1933年の問題」]『婦人之友』27-1、1月1日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1月15日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1月17日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1月18日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1月19日
三三年・政局の動向[「ジャーナリズム線上の人物点検」]『都新聞』1月23～27日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1月26日
学堂の心境『九州日報』1月[27]～30日[「尾崎学堂の心境」と改題、『人物春秋』収録]
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』1月29日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2月8日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2月9日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2月10日
[「カンニングに対する社会の叱声」]『[明治大学]駿台新報』340、2月10日
[「今日の問題」]『九州日報[夕刊]』2月11日

堀利彦翁[「時事片々」]『九州日報』2月12日[『人物春秋』収録]

アメリカ外交と日本[「時事片々」]『九州日報』2月17日[『強力政治の将来』収録]

エノケン[「時事片々」]『九州日報』2月18日[「エノケンの芸術」と改題、『街頭政治読本』収録]

河上肇と大塚金之助『改造』15-3、3月1日[『人物春秋』収録]

斎藤内閣につぐもの『経済往来』8-3、3月1日[『加州毎日新聞』3月16～18、20～23日に転載]

新聞時評－新聞経営論－『中央公論』48-3、3月1日[「新聞企業を解剖する」と改題、『街頭政治読本』収録]

大里伝平君の死[「随筆」]『文芸春秋』11-3、3月1日

虚脱政治の危険性[「政治時評」]『文芸春秋』11-3、3月1日[『強力政治の将来』収録]

世界政治の破局を繞つて[「論壇時評」]『読売新聞』3月12日

米国金融大恐慌の極東政治への影響[「論壇時評」]『読売新聞』3月14日[『強力政治の将来』収録]

就職戦線[「学苑」]『九州日報』3月15日

座談会 経済封鎖討論『改造』15-4、4月1日[3月4日座談会(於帝国ホテル): 加藤恭平、蠟山政道、高橋亀吉、日比野正治、牧野輝智、本間雅晴、山本実彦]

国際危機対策を政局は解決し得るか?『経済往来』8-4、4月1日[「国際危機と我政界の対策」と改題、『強力政治の将来』収録]

支那動乱と国際危険[「政治時評」]『文芸春秋』11-4、4月1日[『強力政治の将来』収録]

読売新聞[「時事小言」]『九州日報』4月7日

後継内閣は何処へ『ダイヤモンド』21-12、4月11日

政変は必至『九州日報[夕刊]』4月11～13日[「政変の根本問題－政変必至論」と改題、『街頭政治読本』収録]

経済封鎖[「時事小言」]『九州日報』4月16日

外務省人事問題[「時事小言」]『九州日報』4月18日

石油受難[「時事小言」]『九州日報』4月22日

米国の対露承認問題[「時事小言」]『九州日報』4月24日

後継内閣論『改造』15-5、5月1日[『強力政治の将来』収録]

支那危局と日本政局『経済往来』8-5、5月1日[『強力政治の将来』収録]

小川郷太郎君[「次の大蔵大臣を推薦す」]『実業之世界』30-5、5月1日

吉野作造博士とデモクラシー[「吉野博士を偲ぶ」]『中央公論』48-5、5月1日[『人物春秋』、赤松克麿編『故吉野博士を語る』(中央公論社、1934年4月18日)収録]

非常時後継内閣座談会『中央公論』48-5、5月1日[4月10日座談会(於丸ノ内会館): 長谷川如是閑、風見章、野村秀雄、山口義一、麻生久、桜井兵五郎、清沢湧、柴田善三郎、嶋中雄作]

印綿不買は不可能だ[「時事小言」]『九州日報』5月13日

ナチス文化政策批判－文芸アカデミー弾圧に関連して－『読売新聞』5月13、14日[『強力政治の将来』収録]

日英関係悪化の大勢[「時事小言」]『九州日報』5月27日

印綿不買は不可能だ[「街頭ジャーナリズム」]『我観』115、6月1日

大政友会の煩悶『改造』15-6、6月1日[『強力政治の将来』収録]

鳩山文相論—京大事件側面観—[「学苑」]『九州日報』6月1～3日[『人物春秋』収録]

『科学の観点』[「学苑」]『九州日報』6月4日

高橋是清と云ふ人物[「学苑」]『九州日報』6月5、6日[『人物春秋』収録]

自由主義とフアッショ『東京朝日新聞』6月8～10日[『強力政治の将来』収録]

性格的弱さ[「転向をどう見る?」]『週刊時局新聞』22、6月20日

所感一つ二つ『京都帝国大学新聞』184、6月21日

学者になります[「非常時の新職業として貴下は如何なる職業を選ばれるか—青年大衆には何を奨められるか」]『サラリーマン』6-5、6月25日

高橋是清といふ人物『我観』116、7月1日[『九州日報』6月5、6日から転載]

政党政治の崩壊過程『改造』15-7、7月1日[『強力政治の将来』収録]

感想[「佐野・鍋山の転向批判」]『改造』15-7、7月1日[「佐野学に就いての感想」と改題、『人物春秋』収録]

[「五・一五事件を聴く」]『話』1-4、7月1日

『大学の自治』を語る座談会『文芸春秋』11-7、7月1日[座談会：長谷川如是閑、茂木惣兵衛、大森義太郎、向坂逸郎、石浜知行、三枝博音、菅忠雄]

鈴木入閣問題[「時事小言」]『九州日報』8月4日

大学総長論『改造』15-9、9月1日[『続人物春秋』収録]

無任所大臣論『中央公論』48-9、9月1日[『強力政治の将来』収録]

自由主義検討座談会『文芸春秋』11-9、9月1日[座談会(於大阪会館レインボウ・グリル)：芦田均、麻生久、長谷川如是閑、石浜知行、倉田百三、三木清、清沢湧] [『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

国策協定是々非々[「時事小言」]『九州日報』9月20日

現内閣の間口と奥行[「時事小言」]『九州日報』9月22日

頭山満翁[「非常時背後の人」]『改造』15-10、10月1日[『続人物春秋』収録]

挙国一致内閣の実現『中央公論』48-10、10月1日[「挙国一致内閣の宿題」と改題、『強力政治の将来』収録]

斎藤内閣の将来[「今月の問題」]『婦人之友』27-10、10月1日[『強力政治の将来』収録]

外観か内容か[「時事小言」]『九州日報』11月1日

新法学部長末広巖太郎『文芸春秋』11-11、11月1日[『続人物春秋』収録]

国策協定是々非々[「街頭ジャーナリズム」]『我観』120、11月5日

[「読書灯 余の愛読書 推薦新刊書」]『読売新聞』11月7日

山本実彦論[「文学雑誌と主宰者 人物とその業績」]『都新聞』11月9、10日

米券案[「財界往来」]『九州日報』11月12日
外観か内容か[「時事小言」]『九州日報』11月28日
イギリスが全面的高率関税[「財界往来」]『九州日報』11月29日
大毎王国騒動の文化観『改造』15-12、12月1日[「城戸元亮論」と改題、『続人物春秋』収録]
独逸連盟脱退後の欧州政局座談会『世界知識』5-6、12月1日[10月26日座談会(於学会館): 円地与四松、十川次郎、米田実、町田梓桜]
挙国一致内閣再論『中央公論』48-12、12月1日
国際平和について[11月11日講演(於世界平和記念日東京部会主催講演会)]『婦人新報』429、12月1日
現内閣の間口と奥行[「街頭ジャーナリズム」]『我観』121、12月5日
日ソ経済提携論[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月11日[『強力政治の将来』収録]

1934(昭和9)年

外観か内容か[「時事問題展望」]『我観』122、1月1日
高橋是清と若槻礼次郎『改造』16-1、1月1日[『続人物春秋』収録]
[「本紙への批判 週刊への希望」]『週刊時局新聞』35、1月1日
非常時に躍る人物『ダイヤモンド』22-1、1月1日[座談会: 石山賢吉、野崎龍七ほか]
一九三四年の政界展望『中央公論』49-1、1月1日[『強力政治の将来』収録]
政局非常時風景[「非常時の聲音」]『中央公論』49-1、1月1日
新らしき自由『婦人公論』19-1、1月1日
[「この頃食卓にあつた話」]『婦人之友』28-1、1月1日
政党政治教程[「対危機教程」]『文芸春秋』12-1、1月1日
政治的建設の諸問題『九州日報』1月5、6日
婦人参政権の将来[「一九三四年の展望」]『読売新聞』1月5日
次の政権をめぐる人々『読売新聞』1月5~8、10~12、14日[「政界首脳部論」と改題、『続人物春秋』収録]
政党政治は復活するか『改造』16-2、2月1日[1月8日座談会(於帝国ホテル): 島田俊雄、長谷川如是閑、富田幸次郎、松岡洋右、中野正剛、大森義太郎、山本実彦]
医学博士の問題[「博士疑獄の真相」]『中央公論』49-2、2月1日
関税独裁権の問題[「週末短言」]『婦人之友』28-2、2月1日
不満足の内政会談申合せ[「週末短言」]『婦人之友』28-2、2月1日
35年軍縮会議対策[「週末短言」]『婦人之友』28-2、2月1日
政治的建設の諸問題『我観』123、2月5日
林銑十郎と真崎甚三郎『改造』16-4、3月1日
註文三箇条[「新陸相に与ふ」]『文芸春秋』12-3、3月1日

次の政権をめぐる人々『北米時事』3月5～10、12、13日

小野塚東大総長[「三大学総長論」]『東京朝日新聞』4月15～18日[「小野塚東大総長論」と改題『続人物春秋』収録]

スポーツー宗教ー社会『東京朝日新聞』4月16日

分析と総合と創造[「週間話題」]『アサヒグラフ』22-22、5月30日

後継内閣座談会『中央公論』49-8、7月1日[出席者：阿部真之助、清沢淵、野村秀雄、御手洗辰雄、嶋中雄作]

新官僚論『大阪朝日新聞』7月17～20日

だまされた話[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-3、7月18日

立身出世といふことをどう考へまた教へたらいいか？[インタビュー]『児童』1-3、8月1日

横光利一君のぐりむぶず[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-8、8月22日[「横光利一論」と改題、『続人物春秋』収録]

*二宮尊徳翁はどこが偉いか『児童』臨時号、9月18日

内外政局評話『ダイヤモンド』22-29、10月1日[記者インタビュー]

臨時議会の含蓄味[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-15、10月10日

国防と農村『我観』12-11、11月1日[10月1日座談会(於永楽倶楽部)：風見章、香月保、林広吉、坂西大佐、益田豊彦、加瀬三郎、松崎武雄、雨森隆道]

人物評論の科学『社会及国家』224、11月1日[『続人物春秋』収録]

政党はどうなる？[「週間話題」]『アサヒグラフ』23-22、11月28日

政党総裁論『改造』16-13、12月1日

議会政治の将来[講演]『労働経済』5-12、12月1日

1935(昭和10)年

政党革新と政局の新動向『ダイヤモンド』23-1、1月1日

新官僚の没落『中央公論』50-1、1月1日

一九三五・六年の危機検討座談会『芸芸春秋』13-1、1月1日[1934年12月4日座談会(於芝公園浪華家)：小野武夫、芦田均、高橋亀吉、田中耕太郎、平田晋策、横田喜三郎、斉藤龍太郎]

不発弾動議をさしはさんで[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-3、1月16日

月明、案外の獲物“専門家”芦田君の外交質問 破顔一笑外相の降壇ぶり[「議会展望車」]『大阪朝日新聞』1月26日

解散問題を繞る政局の基本動向『改造』17-2、2月1日

澱んだ雰囲気“五月雨趣味”の横溢[「議会展望車」]『大阪朝日新聞』2月5日

寸劇“爆弾後始末”[「議会展望車」]『大阪朝日新聞』2月10日

西郷南洲『改造』17-3、3月1日[『続人物春秋』収録]

美濃部達吉論『中央公論』50-3、3月1日[『続人物春秋』収録]

政治の心理[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-10、3月6日
内閣審議会論[「政治時評」]『経済往来』10-4、4月1日
政治家の本質を論じて政治の復興に及ぶ『行動』3-4、4月1日
佐々弘雄氏尾崎聖堂氏に訊く 議員生活四十五年 代議政治の現状をいかに見る?[インタビュー]『婦人之友』29-4、4月1日
審議会の重要性『ダイヤモンド』23-11、4月11日
日蘇関係片々[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-17、4月24日
政策と擬政策[「教育随筆」]『教育』3-5、5月1日
議会改革問題[「日本改造の諸問題」]『日本評論』11-5、5月1日
大学検討座談会『文芸春秋』13-5、5月1日[4月10日座談会(於芝公園なには家):阿部真之助、木村正義、清沢洵、戸坂潤、中島太郎、原田実、森田草平、斎藤龍太郎]
審議会の運用[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-21、5月22日
政友大崩壊と新政党の問題『改造』17-6、6月1日
内閣審議会の前途[「審議会を繞る政局の渦紋」]『中央公論』50-6、6月1日
[「週間話題」]『アサヒグラフ』24-26、6月26日
結構な暑さ[「週間話題」]『アサヒグラフ』25-7、8月14日
現代政党論『行動』3-9、9月1日
[「選挙粛正に関する「諸家の意見」]『壮年団』1-9、9月1日
都会の窓[口絵]『婦人之友』29-9、9月1日
床次から望月へ[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』9月11~13日
スポーツ三人博士 医博東、文博辰野、法博末弘[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』9月21日
非常時財政を担ふ人々[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』9月22、23、25日
新党計画を繞る政局の現段階『改造』17-10、10月1日
唐沢俊樹と吉田茂[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』10月7、9日
府県会選挙管見[「週間話題」]『アサヒグラフ』25-15、10月9日
松平恒雄と重光葵[「新人物春秋」]『大阪朝日新聞』10月22~24日
岡田さんの次は誰れ?[「週間話題」]『アサヒグラフ』25-22、11月27日
後継内閣論—政局の全局面研究—『改造』17-12、12月1日
来議会と政党の将来[「今の問題」]『婦人之友』29-12、12月1日

1936(昭和11)年

解散断行論『改造』18-1、1月1日
議会解散と政局『ダイヤモンド』24-1、1月1日[12月12日座談会(於交詢社):風見章、頼母木桂吉、中島弥団次、前田米蔵、島田俊雄、松岡駒吉、阿部真之助、石山賢吉、野崎龍七]

「1.日本が世界におくりたいもの 2.世界から日本にもらひたいもの」『婦人之友』30-1、1月1日
社会週語『アサヒグラフ』26-2、1月8日
宇垣内閣出現の可能性[「解散後の政局とその財界影響」]『経済情報』11-2、1月11日
犯罪と人情[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-3、1月15日
文化の音律と色彩[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-4、1月22日
文章論[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-5、1月29日
学堂を囲む(座談会)『日本評論』11-2、2月1日[座談会：尾崎行雄、麻生久、蠟山政道、清沢冽]
民政党は何を求める[上記「学堂を囲む(座談会)」の一部を分離したもの]『日本評論』11-2、2月1日[座談会：永井柳太郎、室伏高信、蠟山政道、清沢冽]
選挙風景[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-6、2月5日
社会週語『アサヒグラフ』26-7、2月12日
牧野信一君の印象[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-17、4月22日
桜花を見る心[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-18、4月29日
下克上論『改造』18-5、5月1日
議会の改革[「問題の風景」]『婦人之友』30-5、5月1日
騙し方のさまざま[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-19、5月6日
フロイドと政治[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-20、5月13日
文明の悲劇[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-21、5月22日
広田首相の評判[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-22、5月27日
出版の浮世[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-23、6月3日
吏道の刷新[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-24、6月10日
ルール占領よりライン進駐へ[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-25、6月17日
内地を向いた外交[「社会週語」]『アサヒグラフ』26-26、6月24日
高文試験の一新[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-1、7月1日
我国政治の現段階[「時局評論」]『壮年団』2-7、7月3日
国策氾濫の是非[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-3、7月15日
電力民有国営[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-4、7月22日
行動主義文学[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-5、7月29日
スペイン内乱[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-6、8月5日
[「はがき問答 反英同盟か反露外交か」]『国策』3-2、8月5日
スポーツ精神の徹底『アサヒグラフ』27-7、8月12日
内閣の権威いづこ[「社会週語」]『アサヒグラフ』27-8、8月19日
広田国策の政治的意義[「特輯 準戦時経済体制と広田内閣の役割」]『ダイヤモンド』24-30、10月1日

議会改革をめぐる諸問題[「議会政治改革の渦」]『ダイヤモンド』24-34、11月11日

政局の基本的動向『壮年団』2-12、12月1日

[「本年度の傑作(端書回答)」]『文芸懇話会』1-12、12月1日

1937(昭和12)年

政党の反噬[「世界政治経済の動向」]『帝国大学新聞』654、1月1日

英・独二国の中間型 挙国協力主義の強化[「1937年の問題 政治」]『週刊朝日』31-2、1月3日

総辞職の外なし[「広田内閣の審判」]『改造』19-2、2月1日

政党の対議会態度[「第七十議会に与ふ」]『中央公論』52-2、2月1日

新内閣の誕生と政党の没落[「議会は解散か」]『ダイヤモンド』25-5、2月11日

政局の急展開!『週刊朝日』31-9、2月14日

將軍宰相林銑十郎論『アサヒグラフ』28-8、2月17日

『時局政治学』—含蓄ある関口泰氏の文章『帝国大学新聞』662、3月1日

Public opinion in Japan takes own forms: is based on behavior『The Japan Advertiser』3月4日[英文署名は、Hiro-o Sassa]

Our public opinions: voices heard and unheard『Contemporary Japan』5-4、3月[英文署名は、Hiro-o Sassa]

解散時局の解剖[「解散から転廻する政治」]『ダイヤモンド』25-11、4月11日

新党問題と林内閣の危機『改造』19-5、5月1日

総選挙後に来るもの『財政経済時報』24-5、5月1日

日本政治の特殊性を検討する座談会『文芸春秋』15-5、5月1日[座談会:石浜知行、大森義太郎、向坂逸郎、丸山幹治、三木清、御手洗辰雄、横田喜三郎][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

総選挙批判『早稲田大学新聞』70、5月5日

総選挙の意味と総辞職必至の政治動向『週刊朝日』31-24、5月16日

企画庁の根本問題『経済知識』17-6、6月1日

林内閣は退却しないか『財政経済時報』24-6、6月1日

国民性の陶冶『婦人之友』31-6、6月1日[4月30日座談会(於南沢):小西重直、野上豊一郎、今井登志喜、柳田国男、杉森孝次郎、蠟山政道、三木清、羽仁吉一、羽仁もと子]

新内閣の人々『東京朝日新聞』6月5~8日

*雲を破る一脈の陽光『新東洋』6-6、6月

林内閣の総辞職から近衛公の大命拝受へ『週刊朝日』31-29、6月13日

新首相近衛文麿公[「近衛“挙国内閣”の形相」]『週刊朝日』31-30、6月20日

『フアツシヨは強いか弱いか』大座談会『世界知識』10-7、7月1日[5月24日座談会(於陶々亭):木下半治、清沢冽、杉森孝次郎、鈴木東民、町田梓楼、三輪寿壮]

近衛内閣と特別議会『改造』19-8、8月1日

議場の近衛公『アサヒグラフ』29-6、8月11日

心の追憶 『龍南』238、10月30日

戦時内閣論『改造』19-12、11月1日

支那事変の収局を語る『財政経済時報』24-11、11月1日[座談会：加田哲二、黒田乙吉、藤枝丈夫、松本忠雄、横井半三郎、中村忠]

問題の都市 ミュンヘン[口絵]『婦人之友』31-11、11月1日

「カレントブックス」『帝国大学新聞』697、11月29日

内閣制度改革論[「近衛内閣の改造」]『中央公論』52-13、12月1日

危局人物典型『改造』19-15 [増刊]、12月16日

1938(昭和13)年

アジア共感の世界政策と新支那『ダイヤモンド』26-1、1月1日

決定的要因となるものは対支長期対立と国際政情[「一九三八年の諸問題 政治」]『週刊朝日』33-2、1月2日

政局の混迷を衝く『ダイヤモンド』26-13、5月1日

立上った近衛首相『アサヒグラフ』30-19、5月11日

内閣大改造の意味と目的『ダイヤモンド』26-16、6月1日

明治変革期の英雄を語る『大陸』1-2、7月1日[5月12日座談会(於山水楼)：中野正剛、徳富蘇峰、木村毅、杉山平助、藤井甚太郎、山本実彦]

内閣大改造の成功と今後の問題[「時の問題・人」]『婦人之友』32-7、7月1日

*支那事変と国民組織『新国民運動』3、10月

“東亜の新秩序” 内容の充当はこれから[「掲げられた大旗”東亜の新秩序”」]『週刊朝日』34-24、11月20日

国民再組織運動はどうか[「戦時政治の動向」]『ダイヤモンド』26-35、11月21日

1939(昭和14)年

興亜院の使命[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-1、1月1日

「国体法の研究」刊行完成祝賀会之記の祝辞『国体学雑誌』198、1月1日[里見岸雄著『国体法の研究 天皇は統治権・実の主体にして権利の総攬者たるを論ず』<増訂新版>(錦正社、1942年7月20日)収録]

「事変第三年を迎ふるに当り壮年団運動に何を求むるか」『壮年団』5-1、1月1日

国民組織問題の検討『中央公論』54-1、1月1日

国民再組織を語る『日本評論』14-1、1月1日[座談会：千石与太郎、永田清、河野密、奥村喜和男、正木千冬、帆足計、勝間田清一、雨宮菊夫、室伏高信]

平沼内閣出現の意義『ダイヤモンド』27-2、1月11日

政党の季節的内紛[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-3、1月15日

政変ならぬ政変 近衛より平沼へ[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-5、1月22日

戦時議会の新秩序[「世界の動き 国内」]『週刊朝日』35-6、1月29日

戦時国策一貫の政治方法論『改造』21-2、2月1日

政治外交研究懇談会『壮年団』5-10、10月10日[9月16日座談会(於軍人会館):後藤隆之助、高橋雄豹、尾崎秀実]

1943(昭和18)年

都心の秋色『アサヒカメラ』18-4、10月1日

1945(昭和20)年

焦土をめぐる『朝日新聞』3月18日

一億相哭の秋[無署名]『朝日新聞』社説、8月15日

東条軍閥の罪過[無署名]『朝日新聞』社説、9月17日

1946(昭和21)年

総選挙と政党の理想『潮流』1-1、1月1日[『世界の命運』収録]

誠実と真実を以て[「特集ラジオの転換に寄す」]『放送』6-1、1月1日

婦人と政治『女性新聞』1、3月1日

少国民と政治[「時局の問題」]『少国民の友』23-1、4月1日

政治の後手と先手『トップ』1-1、5月1日

戦争と平和—政党の理論に寄せて—『朝日評論』1-4、6月1日[『世界の命運』収録]

政治の主体[「政治講座」]『婦人と政治』7月1日[『世界の命運』収録]

歴史の動因と主体『世代』1-3、9月1日[『世界の命運』収録]

わが新生活と世界観『進路』1-4、10月1日[7月26日座談会:三枝博音、岡邦雄]

食と職『食と生活』1-6、11月1日[『世界の命運』収録]

代議士と常置委員会[「政治時評」]『新生』2-11、11月1日

祖国再建の理論と人間『自由国民』19-5、11月10日

1947(昭和22)年

社会科学の四次元的展開『エコノミスト』26-2、1月11日[『世界の命運』収録]

機構いじり[「声」]『朝日新聞』1月22日

政治における心理と感覚『進路』2-3、3月1日[『世界の命運』収録]

再建段階に入る“わが政治”[談]『北国毎日新聞』3月28日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十二年版 II』(新聞資料出版、1999年)収録]

再建の秋[『都論壇』]『都新聞』4月6日[『世界の命運』収録]

知識階級の運命と使命[『都論壇』]『都新聞』5月7日[『世界の命運』収録]

祖国再建の理念[「人民評論」]『夕刊新大阪』460、5月13日[『世界の命運』収録]

党略より理想へ[「どんな内閣を作るべきか」]『読売新聞』5月15日[『世界の命運』収録]

片山内閣論『時事新報』6月10、13日[『世界の命運』収録]

民主政治の具体化『九州タイムズ』6月12、13日

社会党内閣の性格[「時評」]『女性新聞』39、6月21日[『世界の命運』収録]

民主政治の具体化[「都論壇」]『都新聞』6月25日[『世界の命運』収録]

新国会と国民の良識—民衆政治の基本をなすもの『婦人朝日』2-7、7月1日[『世界の命運』収録]

就任に際して『熊本日日新聞』7月14日

[「特輯 青年如何に生くべきか」]『青年の国』2-4、8月1日

廿世紀の課題『世代』2-1、9月1日[『世界の命運』収録]

平和への途[「教養講座」]『婦人之友』41-9、9月1日[『世界の命運』収録]

政党理論の転換—社会党をめぐる政局批判—『朝日評論』2-10、10月1日[『世界の命運』収録]

学生と政治『大学』1-5、10月1日[『世界の命運』収録]

*日本の民主主義『民主教育』9月・10月

祖国再興の途[「公論」]『熊本日日新聞』10月12日

日本輿論の解剖—その歴史的素描—『地上』1-7、11月1日

批判は法律へも[「判事の餓死をどう見る」]『朝日新聞』11月6日

石炭官管の成行[「公論」]『熊本日日新聞』11月14日

政党法反対論[「公論」]『熊本日日新聞』11月21、22日

宗教と政治と婦人[「公論」]『熊本日日新聞』11月25、26日[『政治力の形成』収録]

片山西尾氏らへの忠言[「時評」]『読売新聞』12月8日

A political survey『Nippon Times』12月18～20日

講和会議に臨む国内態勢『工業情報』3-12、12月25日[座談会：鍋山貞親、横山五市、井上縫三郎、市川恒三、林正夫、吉岡一朗、神保伸二]

1948(昭和23)年

国民自立の歳『熊本日日新聞』1月1日

平和への旅路—政治と宗教とのつながり『婦人朝日』3-1、1月1日

新春政局展望[「公論」]『熊本日日新聞』1月13、14日
[「容共か反共か 回答しない理由」]『日本週報』72・73、2月1日
首班は自由党へ[「政局如何に收拾さるべきか」]『読売新聞』2月6日
政局を語る―首相指名の混迷と新内閣への要望―『東洋経済新報』2311、2月28日[座談会：岩淵辰雄、大塚万丈]
一問一答の意義[「問答前記」]『一問一答』1、3月1日
保守と赤旗の政治論争『一問一答』1、3月1日[座談会：徳田球一、山口喜久一郎]
小型になった政治家『サンデー毎日』52-10、3月7日[対談：辰野隆と]
芦田内閣を語る『東京新聞』3月12～14日[座談会：小坂善太郎、米窪満亮、周東英雄、野坂参三、船田亨二]
昭和政治史抄『民衆大学』3-2、3、3月28日、4月28日
政治力の形成『朝日評論』3-4、4月1日[『政治力の形成』収録]
党略政治を疑う『PHP』2-3、4月1日
婦人の政治への途『食と生活』3-5、5月1日
憲法記念の日『熊本日日新聞』5月3日
県政と国政[「公論」]『熊本日日新聞』6月22、23日[『政治力の形成』収録]
[「近頃の放送への注文」]『放送文化』3-4、6月30日

5. 評論集初出

*収録時に改題された評論は、初出掲載誌欄に原題を示した

『政治の貧困 転換期の政治批判』千倉書房、1931年2月20日

収録評論	初出掲載誌
社会的貧困の歴史的発展	
政治貧困の二象徴	
労働者農民の生活相	
労資階級闘争の現状	
労資政治闘争の現段階	
政治理論と現代政治の傾向	『我観』68、1929年7月1日
政治的強力について	『我観』74、1930年1月1日
政争から政治闘争への過程	『我観』79、1930年6月1日
政党論	『我観』77、1930年4月1日
プロレタリア政治学の理論と実際	『改造』12-3、1930年3月1日
社会科学及政治学の一般の問題	『経済往来』5-2、1930年2月1日
無産政党論	
日本大衆党の成立及崩壊の過程	大衆党の成立及崩壊の過程『九州日報』1929年5月25～28日
独立無産党内閣の予想	『中央公論』45-3、1930年3月1日
無産政党の惨敗の理由	
無産政党の合同及びその将来	『我観』77、1930年4月1日
全国大衆党の結党	『経済往来』5-9、1930年9月1日
日本人口問題	『社会思想』6-9、1927年9月1日
普通選挙制度批判	『国家学会雑誌』41-12、1927年12月1日
失業問題の意義及其の対策	『九州日報[夕刊]』1929年9月17、18、20～22、28、29日、10月1、2日
教育制度及行政の問題—教育の強力化—	
統帥権問題—国防責任論戦の時代風景—	国防責任論戦の時代風景『九州日報[夕刊]』1930年5月5、7～9日
海軍軍縮問題—ロンドン海軍条約の文化観—	ロンドン海軍条約の文化観『九州日報』1930年4月28、30日、5月1、2日
貴族院・枢密院論—現代日本の政治過程に於ける封建勢力—	現代日本の政治過程に於ける封建勢力『我観』82、1930年9月1日

『日本ファシズムの発展過程』浅野書店、1932年4月20日

収録評論	初出掲載誌
ファシズム論	『改造』13-12、1931年12月1日
議会制度の危機とファシズム	議会制度の危機に於けるファシズム『経済往来』6-4、1931年4月1日
議会政治の顛落	『改造』13-3、1931年3月1日
議会政治と革正運動	
浜口内閣と議会	
政局を支配するもの	『改造』13-5、1931年5月1日
減俸案問題	減俸案問題の解剖『エコノミスト』9-12、1931年6月15日
日本ファシズムの発展過程	『中央公論』46-6、1931年6月1日
日華危機迫る	『改造』13-19、1931年10月1日
奉天事件の勃発	『エコノミスト』9-19、1931年10月1日
日支全面的政治抗争	全面的政治抗争『中央公論』46-11、1931年11月1日
強行軍部と幣原外交	『改造』13-11、1931年11月1日
犬養内閣論	『改造』14-1、1932年1月1日

政友内閣の政治的分析	『帝国大学新聞』412、1931年12月21日
協力内閣と単独内閣	『九州日報』1931年12月17～19日
政局動乱期に入る	『改造』14-2、1932年2月1日
総選挙後の民政党とその前途	民政党の前途『改造』14-4、1932年4月1日
政友会の内紛とその前途	『九州日報』1932年3月23～25日

『政局危機の動向』千倉書房、1932年11月23日

収録評論	初出掲載誌
嵐の前に立つ大政友会	『改造』14-5、1932年5月1日
失業対策の失業	『経済往来』7-5、1932年5月1日
無産党陣営アジアの嵐	『経済往来』7-5、1932年5月1日
資本家階級と満州－三井・三菱の国家奉仕！－	三井三菱の国家奉仕！『婦人之友』26-5、1932年5月1日
臨時議会論－ファツシズムの新運動－	『経済往来』7-6、1932年6月1日
ファツシズム内閣論	『改造』14-6、1932年6月1日
非常時日本の政治的展望	『改造』14-7、1932年7月1日
斉藤非常時内閣論	非常時内閣論『経済往来』7-7、1932年7月1日
農村苦悩の政治化	『エコノミスト』10-12、1932年6月15日
斉藤内閣と修正議会主義	『経済往来』7-8、1932年8月1日
民政党裏話	大民政党の分裂裏話『中央公論』47-11、1932年8月1日
斉藤内閣の次に来るもの	『経済往来』7-9、1932年9月1日
社会大衆党と労働組合会議	『社会政策時報』144、1932年9月1日
満州政策の切断面	『改造』14-9、1932年9月1日
政局の廻転	『日本国民』1-6、1932年10月1日
非常時議会の内外批判	『経済往来』7-11、1932年10月1日
財政危機と政局危機	『経済往来』7-12、1932年11月1日
リットン報告書論	リットン報告書『改造』14-11、1932年11月1日
日支露満関係の再認識	日－支－露－満関係の再認識『九州日報』1932年10月22～25日
ファツシズム略解	ファツシズム解説『九州日報[夕刊]』1932年7月22～24、26～29、31日、8月3日

『人物春秋』改造社、1933年7月21日

収録評論	初出掲載誌
人物論	『九州日報』1932年10月29、30日
英雄は不代替物か	『九州日報』1931年6月30日、7月1日
大山と麻生	『改造』13-8、1931年8月1日
大川周明論	『改造』14-10、1932年10月1日
尾崎学堂の心境	学堂の心境『九州日報』1933年1月[27]～30日
河上肇と大塚金之助	『改造』15-3、1933年3月1日
吉野作造博士とデモクラシー	『中央公論』48-5、1933年5月1日
河上肇と吉野作造の対照観	河上肇と吉野作造『九州日報』1931年12月29、30日
『時の人』赤松克麿君	『九州日報』1931年12月20、21日
堺利彦翁	『九州日報』1933年2月12日
佐野学に就いての感想	感想『改造』15-7、1933年7月1日
直木三十五論	
青山能治の人物	
浜口首相の遭難	『九州日報[夕刊]』1930年11月21～23日
浜口君の心腸－首相遭難の個人観	『九州日報』1930年11月20日
若槻新総裁論	『改造』13-5、1931年5月1日
久原房之助の人柄	
江木翼の引退	『改造』13-19、1931年10月1日

人及び政治家としての井上準之助	『改造』14-3、1932年3月1日
犬養毅宰相論	
犬養健の木堂観	
伊沢多喜男の政治的立場	『改造』14-8、1932年8月1日
政界ダークホース論	『改造』14-12、1932年12月1日
宇垣一成の政治的立場	『経済往来』8-1、1933年1月1日
森恪論	『経済往来』8-1、1933年1月1日
鈴木喜三郎論	
高橋是清と云ふ人物	『九州日報』1933年6月5、6日
鳩山文相論—京大事件側面観—	『九州日報』1933年6月1～3日
張良論	『改造』13-4、1931年4月1日
諸葛孔明の人格	
人間としてのマルクス	『九州日報』1931年7月29日
マクドナルド	
シユトレーゼマンの雄弁	国難独逸の雄弁『改造』11-3、1929年3月1日

『街頭政治読本 政治認識の基礎知識』千倉書房、1933年4月25日

収録評論	初出掲載誌
政治を語る	『九州日報』1931年1月1、3～6日
資本と政治	『九州日報』1932年4月8、9日
財閥と議会政治	
解散二風景	
ファツシズムと日本	
ファツシズムの国家化と国際化	『九州日報』1931年2月15日
ギャングの歴史性	
テロリズムとギャング	『九州日報』1932年3月27～29日
タマニーホール	『九州日報』1931年4月14日
日系市民の問題	日系市民の問題—布哇に於ける米人殺害事件—『帝国大学新聞』265、1928年10月1日
輿論とは何ぞや	
新聞企業を解剖する	新聞時評—新聞経営論—『中央公論』48-3、1933年3月1日
ブルジョア・フェミニズムの問題	ブルジョア・フェミニズムを克服せよ『婦人公論』17-5、1932年5月1日
貨幣相場の問題	貨幣相場安定の問題『社会思想』4-2、1925年2月1日
インフレーションの話	『九州日報』1932年4月5、6日
農村救済策の救済	『九州日報』1932年7月18、19日
合法無産党の問題	
反動の赤化	
枢密院だけでも	『九州日報』1931年1月6日
枢密院の秋色	『九州日報』1930年9月18日
元老、重臣の出馬	『九州日報』1931年10月20日
総裁ごっこ	『九州日報』1931年6月18日
浜口出でずんば	
スペインの動揺	『九州日報』1931年3月6日
ブリュニングの演説とフランス	『九州日報』1930年10月24日
国際政治とR—O—一号	『九州日報』1930年10月25日
昭和十七疑士	『九州日報』1930年11月27日
珍品五〇の受領証	『九州日報』1931年12月16日
民政党内閣時代	
斎藤内閣時代—傍聴席から	議会日日 傍聴席から『九州日報[夕刊]』1932年9月3、4、6日[3日のみ朝刊]
政変の根本問題—政変必至論	政変は必至『九州日報[夕刊]』1933年4月11～13日
貧困線	『九州日報』1930年12月28日

生産高と失業	『九州日報』1931年4月10日
売淫と社会	『九州日報』1931年1月7日
AとBとの会話	『九州日報』1931年8月16日
金の話	『九州日報』1931年5月25日
文化の危機	
ラヂオ論	『九州日報』1931年7月27日
音楽	『九州日報』1931年4月16日
大衆娯楽雑誌	
小新聞	『九州日報』1932年10月27日
なんせんすの背後	なんせんす『九州日報』1931年7月20日
婦人煙草うらら	うらら『九州日報』1932年7月17日
迷信の食物	『九州日報』1931年8月18日
大東京の顔	大東京所感『九州日報』1930年9月24日
ハイド・パークの有閑風景	『九州日報』1931年10月26～28日
インテリの危機	
煙突上のインテリゲンツイヤ	『九州日報』1930年11月24日
警官とパツカード	
暴力団の限界	
清談と政談	
闘争性の将来	
学校と学問	『週刊朝日』22-17、1932年10月9日
教育制度の変革期	『九州日報』1930年10月26日
父性	『九州日報』1931年11月5～7日
教師と生徒との関係	『九州日報』1931年8月19、20日
学校当局の答弁	『九州日報』1932年5月8～10日
時局指導者の点検	
エノケンの芸術	エノケン『九州日報』1933年2月18日
ムツソリーニは偉いだろうか	
スポーツ・ぐりむぶす	
早慶戦唯物史観	『九州日報』1931年6月20、21日
野球は峠を越へた	『九州日報』1930年9月20日
ラグビー	
マラソン競争	『九州日報』1932年5月11日
織田幹雄選手とドイツ	『九州日報』1930年9月23日

『強力政治の将来』河出書房、1934年2月7日

収録評論	初出掲載誌
昭和八年政局の変局	『改造』15-1、1933年1月1日
昭和八年政局に於ける国際政治	
政党内閣の成立は果して可能か	
後継内閣運動の種々相	
次期内閣諸運動の性質	
虚脱政治の危険性	『文芸春秋』11-3、1933年3月1日
財政危機時代	『九州日報[夕刊]』1932年11月13、16～19日
大同団結か小党分立か	
後継内閣論	『改造』15-5、1933年5月1日
大政友会の煩悶	『改造』15-6、1933年6月1日
政党政治の崩壊過程	『改造』15-7、1933年7月1日
自由主義とファッショ	『東京朝日新聞』1933年6月8～10日
議会政治危機の原因	
斉藤内閣の将来	『婦人之友』27-10、1933年10月1日
無任所大臣論	『中央公論』48-9、1933年9月1日
挙国一致内閣の実現	挙国一致内閣の宿題『中央公論』48-10、1933年10月1日
政局将来の動向	

一九三四年の政界展望	『中央公論』49-1、1934年1月1日
政党政治の将来	
国際危機と我政界の対策	国際危機対策を政局は解決し得るか？『経済往来』8-4、1933年4月1日
アメリカ外交と日本	『九州日報』1933年2月17日
ルーズヴェルトの当選と日本政局	『経済往来』7-13、1932年12月1日
民主党アメリカと挙国一致日本	
米国金融大恐慌の極東政治への影響	『読売新聞』1933年3月14日
支那危局と日本政局	『経済往来』8-5、1933年5月1日
支那動乱と国際危険	『文芸春秋』11-4、1933年4月1日
ナチス文化政策批判－文芸アカデミー弾圧に関連して－	『読売新聞』1933年5月13、14日
日ソ経済提携論	『読売新聞[夕刊]』1933年12月11日

『続人物春秋』改造社、1935年5月17日

収録評論	初出掲載誌
政界首脳部論	次の政権をめぐる人々『読売新聞』1934年1月5～8、10～12、14日
政界人評判記	
非常時人物漫評	
高橋是清と若槻礼次郎	『改造』16-1、1934年1月1日
首相としての斎藤実	
後藤文夫論	
林陸相の進退	
富田幸次郎論	
久原房之助論	
頭山満翁	『改造』15-10、1933年10月1日
城戸元亮論	大毎王国騒動の文化観『改造』15-12、1933年12月1日
直木三十五論	
横光利一論	横光利一君のぐりむぶす『アサヒグラフ』23-8、1934年8月22日
大学総長論	『改造』15-9、1933年9月1日
新法學部長末広巖太郎	『文芸春秋』11-11、1933年11月1日
小野塚東大総長論	小野塚東大総長『東京朝日新聞』1934年4月15～18日
美濃部達吉論	『中央公論』50-3、1935年3月1日
西郷南州	『改造』17-3、1935年3月1日
二宮尊徳の政治思想	『我観』70～73、1929年9月1日、10月1日、11月1日、12月1日
人物の地方色	
人物評論の科学	『社会及国家』224、1934年11月1日
分からぬ偉人	分らない偉人－人物評論の一考察－『世界を描く－随筆五十人集』[聞人会編]立命館出版部、1935年1月2日

『政治力の形成』＜国民平和叢書5＞国民平和協会、1948年6月15日

収録評論	初出掲載誌
政治力の形成	『朝日評論』3-4、1948年4月1日
県政と国政	『熊本日日新聞』1948年6月22、23日
宗教と政治と婦人	『熊本日日新聞』1947年11月25、26日

『世界の命運』国立書院、1948年7月5日

収録評論	初出掲載誌
戦争と平和—政党の理論に寄せて—	『朝日評論』1-4、1946年6月1日
救国者は誰か	
政治における心理と感覚	『進路』2-3、1947年3月1日
政治的眞実の探求	
歴史の動因と主体	『世代』1-3、1946年9月1日
日本の民主主義	『民主教育』1947年9月・10月
世界の命運と日本の再建	
社会科学の四次元的展開	『エコノミスト』26-2、1947年1月11日
総選挙と政党の理想	『潮流』1-1、1946年1月1日
終戦第一年の政治批判	
新国会と国民の良識	『婦人朝日』2-7、1947年7月1日
片山内閣論	『時事新報』1947年6月10、13日
社会党内閣の性格	『女性新聞』39、1947年6月21日
政党理論の転換—社会党をめぐる政局批判—	『朝日評論』2-10、1947年10月1日
民主政治の具体化	『九州タイムズ』1947年6月12、13日
祖国再建の理念	『夕刊新大阪』1947年5月13日
党略より理想へ	『読売新聞』1947年5月15日
官僚主義を衝く	
知識階級の運命と使命	『都新聞』1947年5月7日
再建の秋	『都新聞』1947年4月6日
食と職	『食と生活』1-6、1946年11月1日
書物の読方	
廿世紀の課題	『世代』2-1、1947年9月1日
学生と政治	『大学』1-5、1947年11月
政治の主体	『婦人と政治』1946年7月1日
平和への途	『婦人之友』41-9、1947年9月1日